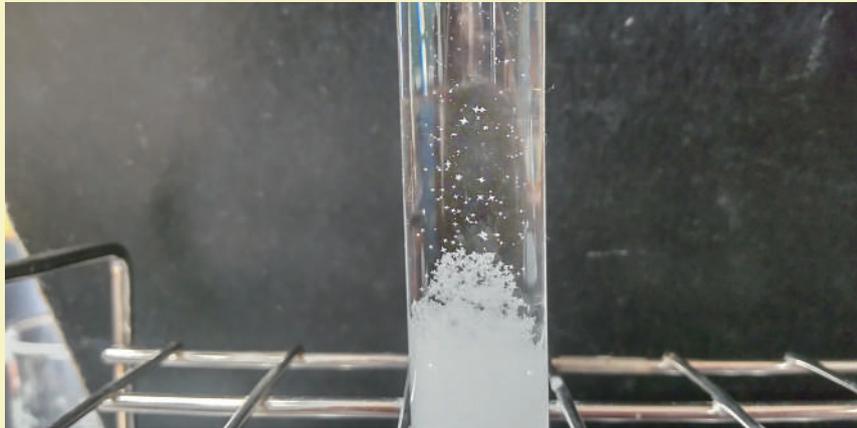


教文通信写真館

試験管の中の雪
(塩化アンモニウムの再結晶)



写真とエッセイ：綿貫京子さん（理科教育研究会 中野立志館高校）

「試験管の中の雪」～塩化アンモニウムの再結晶～

この塩化アンモニウムの再結晶の実験は、初任の時に化学の先生に教えていただいた実験です。化学基礎の一番初め、「物質を純粋なものに分け、純粋な物質について学習していく」という化学の導入部分です。一般的な硝酸カリウムの再結晶とは違い、結晶としては複雑なので、あまり用いられません。入試でも出てきません。しかし、試験管の中で星のような結晶が、雪が降るように積もっていく様子は、幻想的で、生徒もとても喜びます。なので、私が実験を任されたときは、少しでも化学の面白さを伝えたいと思い、取り入れてきました。

(つづきは8p)



初の試み 綿貫さんからご提供いただいた塩化アンモニウム再結晶の動画を、教文ドライブで共有してみます。

教文通信

発行所
長野県教育文化会議
発行人
田澤 秀子

今号の記事

- 01 上田千曲高校 職場教研
- 02-04 きけわだつみのこえ 80年のつどい
- 04-05 開かれた学校づくり全国交流会
- 06-08 教育格差と貧困・多様な学び 共同開催全国研究会
- 08 書籍紹介 教育のつどい記念講演 YouTube 限定公開 教文通信写真館エッセイ (つづき)

職場教研を実施 上田千曲高校

アートセラピー
ワークショップ

ワークショップの作品 (100cm × 130cm)
アクリル絵の具を撒いて、手で広げました。
どろんこ遊びのように自分を解放できました。



職場教研は、アートセラピーワークショップを行いました。芸術療法士の先生をお招きして、様々な画材に触れ、絵を描くことにより、心を開放する手助けをしていただきました。メインのアクティビティーは、りんごを触ったりにおいをかいだり、りんごジュースを飲んだりして、感じたことを好きな画材で表現することでした。リングゴを通じての思い出を紙に落とし込むうちに、ほかののりややストレスも出てきて、描いたあとは不思議とすっきりするという経験をしました。

芸術療法士の先生が、長野朝日放送の取材を受けていて、本校のワークショップも放映されました。「セラピー」の一環で、今回は、教員個人対象でワークショップをお願いしましたが、生徒に対してどう生かすことができるかのご指導も可能ということなので、職場の研修や、支部教研でもお願いするのではないかと思えました。

上田千曲高校 宮澤幸恵

行動する高校生

上原良司と「いま」を生きる わだつみのこえ 戦後80年の集い

今年、戦後80の節目の年。8月25日(土)に、上原良司の母校、松本深志高校の教育会館で『上原良司と「いま」を生きる わだつみのこえ 戦後80年の集い』が行われ、高校生や一般の方々約100人が参加しました。戦跡カメラマンの安島太佳由氏による基調講演のあと、松本第一高校・松本深志高校・松本県ヶ丘高校の高校生が探究活動の探究発表・意見発表を行い、休憩をはさんで、安島氏、3校の高校生各1名と教員に特攻文学を研究されている井上義和帝京大学教授を加えてパネルディスカッションが行われ、盛大な会となりました。

このシンポジウムのために、塩野英雄松本第一高校校長を会長として『上原良治と「いま」を生きる わだつみのこえ 戦後80年の集い』実行委員会を立ち上げ、松本第一高校・松本県ヶ丘高校・松本深志高校の3校の職員(発足時)に加え、高校生実行委員を加えたメンバーで3年間にわたってのべ9回の会議と2回の巡見学習を行いながら、8月23日(土)の準備をしてきました。

この活動に参加した松本深志高校2年生の望月美里さんから感想を寄せてもらいましたのでここに掲載いたします。

外山 由美子 松本深志高校

上原良司と「いま」を生きる

わだつみのこえ 戦後80年の集い

松本深志高校二年望月美里

■ 上原良司

旧制松本中学を卒業し、慶應義塾大学経済学部に進学後、学徒出陣によって特攻隊員として出撃し、戦死した人物です。彼の所感や遺書は、第二次世界大戦末期に戦没した日本の学徒兵の遺書を集めた遺稿集である「きけ わだつみのこえ」に収められています。上原良司は、当時としては極めて珍しい「自由主義」を掲げる人物でした。私は、この上原良司をきっかけとして探究を進めようと集まった高校生による「わだつみのこえ80年の会」の活動を通して、多くのことを学ばせていただきました。この会の活動は、学校の中にとどまっていたのは決して触れることのなかった世界を知る貴重な機会を頂きました。特に、自分が



発表する松本深志生徒

大きく成長できたと感じた、フィールドワークと講演会について述べようと思います。

■ フィールドワーク

フィールドワークでは、上原良司が生きていた当時とほとんど変わらない風景の中を散策したり、上原良司の甥である上原幸一さんに様々なお話を伺ったりしました。お話を実際に聞くなかで、資料と共に当時の写真も見せてもらいました。小さい頃の写真から戦死する直前の写真まで、様々な写真がありました。しかし、20代以降の写真は一枚もありませんでした。

それは当たり前のことです。上原良司は22歳で戦死したのですから。この事実が気がついたとき、私は、彼にも当たり前の生活や人生、そして本来約束されたはずの未来があったのに、それらが戦争によって奪われてしまったという事実を、唐突に突きつけられたように理解し、非常に大きな虚しさを感じました。そして、戦争を体験していない私達のような世代は、知識やきっかけがなければ



上原良司の育った家を訪問し、良司の妹清子さんの実子(良司の甥)の幸一さんの話を聞く

ば戦争について考えることさえ難しいのだと痛感しました。私は幸運にも、このフィールドワークや「わたつみのこえ80年の会」を通して考えるきっかけを得ることができましたが、そうした機会を持たない人のほうが遥かに多いでしょう。だからこそ、学んだことや考えたことを講演会で発信し、誰かの考えるきっかけに繋がりたいと思い、準備を進めました。

■ 講演会

そして迎えた講演会当日。

これまで学んできたことや考えたことを踏まえて発表を行いました。アクシデントもありましたが、講演会に来てくださった様々な方々から発表の感想や、お褒めの言葉をいただき、大きな達成感を得られました。また、戦跡カメラマン―実際に戦跡に赴き写真を撮るジャーナリスト―である安島太佳由氏と、帝京大学の特攻文学論―特攻に関する文学の描かれ方の変遷を論じた研究―を専門とする井上義和教授をお招きし、意見交換会を行いました。安島氏からは「常に政府や国といった声の大きなものに疑問を持たなければならぬ。そして、それに対して反対意見を言う勇氣を持つことが重要だ」という話がありました。その直後、間を置かず会場から大きな拍手が起ったのですが、私はそれをとても皮肉に感じました。「疑問を持たねばならない」と語られたにもかかわらず、会場の多くの人がそこに疑問を挟む間もなく拍手をしたからです。また、井上教授からは様々な視点から見た特攻の姿についての

松本市内の戦争遺跡めぐり新種大学赤レンガ倉庫を見学



お話がありました。その中で「知ったことをそのままにせず、自分で調べて自分の中で深めることが大切だ。特に、一つの視点でしか事実を見るのではなく、様々な視点から自ら調べて事実を見て、自分の考えや意見を決めるべきだ」という話を伺いました。この話を聞いたときに思い浮かんだのが、松本深志高校の教育理念である「自治」です。生徒会や先生の意見をただ鵜呑みにするのではなく、多角的な視点から物事を見て、時には疑問を持ち、自ら考えて答えを出し、必要であるならば



れを発信していく。これこそが「自治」の精神です。安島氏も井上教授も「自治」の重要性を説き、示していたのではないのでしょうか。

この講演会で得た疑問も、そのまま放置するのではなく、自分の中で掘り下げ、自分なりの解答を探す事が重要なのでしょうか。私は、これらの活動を通して、自分の中で一つの解答にたどり着きました。それは、「戦争をしてはいけない」という解答に辿り着く過程は人それぞれであり、一人一人に様々な考え方や意見がある。しかし、それ

を尊重するためには、常に多角的な物事の見方が必要である。」ということなのです。

■ 「きけ わだつみのこえ」

これは、私達が探究を始めた頃から現在まで、そしてきつと探究を締めくくる時まで私達と関わる言葉でしょう。

「わだつみのこえ」とは何でしょうか。

「わだつみ」の意味を調べてみると、「海を支配する神。転じて海、大海」と出てきます。このわだつみの「こえ」とは何を指すのでしょうか。私はこの遺稿集、「きけわだつみのこえ」を初めて読んだときから長い間、その意味が分かりませんでした。しかし、この上原良司に関する活動を通して私は、「海の声のような、戦没学生たちの声なき声を自ら聞こう」という意味ではないかと思いました。海の声は直接聞こえるようなものではありません。

しかし、波や渦、水温からその日の海の状態すなわち「言いたいこと」を読み取ることができません。これを戦没学生に重ねて考えると、すでに亡くなってしまった方々の声は直接聞こえるものではありません。しかし、その当時の遺書や日記、手紙などから戦没学生の方々の「言いたかったこと」を考えることはできるのではないのでしょうか。この考える行為こそが、題名に込められた「きけ」であるのだと思います。

私は「わだつみのこえ80年の会」を通して様々な経験をさせてもらったことで、考えるきつかけを得ることができました。そして今、彼らの伝えた

生徒・学生交流会（オンライン）… クラス・クラブ・生徒会…、生徒の皆さんにご紹介ください

「開かれた学校づくり」全国連絡会主催

※今年第24回「開かれた学校づくり」全国交流会(12/6-7)の分科会の一つとして開催されます

第3回

生徒・学生交

『学校づくりの主人公は生徒』

「こんな学校にしたいなあ」「もっとこんなことをして皆さんの学校生活での悩みや思いを、全国でさまざまな中高生や、大学(院)生と一緒に話し合ってみませんか？



～当日のスケジュール～

第一部 実践報告
三者協議会などの、生徒による学校づくりの実践報告です

第二部 しゃべり場
テーマ別に分かれて全国の高校生・大学生と交流します！
テーマは生徒会活動・大学生活・進路についてなど！



2025年12月7日（日）
10:00 - 12:30

対面：長野県高校教育会館
オンライン：後日ZOOMの情報をお知らせします

▼参加は次のQRコードから

※応募締切11月30日



最新情報は右の公式
Instagramから
▶@hgseitogakusei



「開かれた学校づくり」全国連絡会
・email: hg.seitogakusei@gmail.com

開かれた学校づくり全国連絡会主催

「生徒・学生交流会」

かったことは何だったのかということを探求していくことこそが、戦没者である彼らへの最大限の敬意であり、今後私達が果たしていくべき使命だと確信しています。最後になりますが、このような貴重な経験の機会

を与えてくださった「わだつみのこえ80年の会」を企画・運営してくださった先生方、後援してくださった団体の皆様、そしてご寄付を通じて支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

第24回 開かれた学校づくり全国交流会 in 長野

子どもの権利条約批准31周年。「こども基本法」が一昨年スタートし、「こども大綱」のアクションプラン「こどもまんなか実行計画」が策定され、全国の自治体では「子どもの権利条例」制定も広がっています。

子どもの権利条約を生かした生徒・保護者・教職員の参加と共同の学校づくり、生徒参加の地域づくりをどう進めていくか、長野県下の実践報告を中心に交流します。

1. 開催日時 2025年12月6日(土)13:00～17:00 7日(日)10:00～13:00
2. 開催場所 長野県高校教育会館(〒380-0838 長野市県町593)(オンライン併用ハイブリッド方式)
3. 参加費 無料 教職員・生徒・市民、、、どなたでも参加できます。
4. 参加申込 右のQRコードからお申し込みください
生徒・学生交流会は4PチラシのQRから。



- 発表校
- 6日(土)
- ◆松本市立丸ノ内中学校「自由服登校プロジェクト」
 - ◆松本深志高校「生徒会自治と鼎談深志」
 - ◆岡谷東高校「PTS協議会」
 - ◆辰野高校「三者協議会」
 - ◆箕輪進修高校「箕輪未来プロジェクト」
- 7(日)(3分科会)
- ①「生徒参加の学校づくり」
- ◆佐久市立野沢中学校
 - ◆小海高校
 - ◆軽井沢高校
 - ◆伊那北高校
- ②「生徒参加の地域づくり」
- ◆中野西高校
 - ◆大町岳陽高校
 - ◆松川高校
- ③「生徒・学生交流会」(詳細はインスタグラム)
- 第一部 生徒による学校づくりの実践報告
- 第二部 テーマ別意見交流(しゃべり場)
- ◇生徒会活動・校則改善・学校行事◇進路選択・大学生活◇地域とのつながり・ボランティア

長野県教育文化会議 第4回総合研究会

校則について考える、地域に出て活動する、議会に請願する、、、長野県内で生徒・教職員・保護者、そして地域とともにとりくまれた「開かれた学校づくり」。その取り組み報告をもとに、長野県内、全国からの参加者とともに生徒を中心とした学校づくりや地域づくりについて考え、学びます

開かれた学校づくり全国交流集会と合同開催

子どもの権利条約を生かした 参加と共同の学校づくり

日時 2025年12月6日(土) 13:00～17:00
7日(日) 10:00～13:00

会場 高校教育会館 RINKS593 オンライン併用
〒380-0838 長野市県町593 TEL026-234-2216

申込 どなたでも参加できます
参加申込はメールまたは下のQRから

参加 無料

参加 予定校

12/6(土):全体会
松本市立丸ノ内中学校「自由服登校プロジェクト」
岡谷東高校「PTS協議会」 辰野高校「三者協議会」
箕輪進修高校「箕輪未来シンポジウム」 松本深志高校「深志の自治」

12/7(日):分科会(学校づくり 地域づくり 生徒・学生交流会)
佐久市立野沢中学校
伊那北高校 小海高校 軽井沢高校 中野西高校 松川高校 大町岳陽高校

開かれた学校づくりの5観点。1.児童生徒、保護者、教職員、住民など、学校にかかわるすべての人々が参加する学校づくり。2.様々な学習・生活上の困難を抱えた子どもたちへの適切な支援により、すべての子どもが安心して楽しく学べる学校づくり。3.子どもの声を聴くおとなの側の共同性と専門性を発揮した子どもの声に応答的な学校づくり。4.保護者、地域住民、教職員による「学校の自治」を尊重する「開かれた教育委員会」を求め地域の人々が共同してすすめていく学校づくり。5.首長、議会等と連携した地域づくり、まちづくりにつながる学校づくり。

教文通信 長野県教育文化会議 TEL: 026-234-2216 Mail: kyobun.nagano-h@educas.jp

教育格差と貧困問題研究会・多様な学び・生徒理解と発達研究会 共同開催 全県研究会

宙わたる教室のリアル 定時制・小規模校の学びの意義を考える

2025年10月11日(土) 12時45分～16時
松本市松本勤労者福祉会館(オンライン併用)

講演

- ① 小規模校・定時制の取り組みは
生徒を社会へつなぐ
清泉大学 武田るい子先生
- ② 大人の都合による学校統合のリアル
札幌大谷大学 蒲生崇之先生
札幌市立札幌大通高校 元教諭
- ③ 国内外の小規模校の取り組み
その課題と意義を問う
清泉大学 岡部 敦先生

報告

- ① 生徒・卒業生が語る
定時制・小規模校のリアル
上田千曲高校・小海高校 在校生・卒業生
- ② 外国生徒支援のリアル
箕輪進修高校 入倉真千子先生

報告

「宙わたる教室のリアル」と題して松本勤労者福祉会館で全県研究会が開催されました。

この研究会は教育格差と貧困問題研究会と多様な学び・生徒理解と発達研究会の共催で開かれました。

前半は3人の研究者の講演、後半は2本の報告があり、定時制・小規模校の教育の「意義の再確認」を主眼に研究会が持たれました。

最初の「小規模校・定時制の取り組みは生徒を社会へつなぐ」は清泉大学の武田るい子さんの講演でした。武田先生は

2024年に定時制高校の調査を実施し、定時制高校の実情をふまえた考察と提言をされました。武田先生は定時制高校の教育の共通点を3つ挙げています。カリキュラム及び授業内容を



多様な生徒に合わせる努力、安心感のある学校環境づくり、地域及び多様な連携の推進体制構築です。

かつての定時制は主に勤労青年の学習を保障する場所でした。しかし現在は少人数ながらも多様な生徒を受け入れています。大勢の生徒が教室にいる全日制になじめない生徒、健康上の理由によって定時制を希望する生徒、日本語が十分に修得できていない外国由来の生徒、様々な家庭事情によって定時制を選んだ生徒など、さまざまな事情を抱えた生徒が定時制で学んでいます。



定時制は一斉授業ではなく多様な生徒に合わせた授業、規則・規制によって排除しない寛容な指導、テストだけで評価するのではなく社会体験や仕事の中の学習での承認、そして少人数ゆえに可能な教育によって生徒が社会で自立し自己実現できる場を作っているということが示されました。

続いて札幌市立大通高校の元教諭の蒲生崇之先生から「大人の都合による学校統合のリアル」というテーマで、札幌市立高校3校の統合の事情をお話いただきました。蒲生先生自らが統合に関わった経験をもとに、三部制単位制の定時制の旭丘高校の開設について詳しい経緯を伺うことがで

きました。定時制課程設置は当初地元や道立の定時制高校からの反対があったが、設置の意義を丁寧に説明して理解を得ることができたそうです。蒲生先生には多様な生徒に多様な学習を保障することを目的にした三部制・単位制の定時制高校設置の経緯をリアルに説明していただきました。

講演の最後に蒲生先生は「もともと教師になる人は学校教育に大なり小なり順応してきました。培われた「常識」を信頼している「オトナ」という指摘がありました。多様な生徒に対し懐を深くして受け入れる学校づくりのために、教職員は「常識」にとらわれた「オトナ」にならず、柔軟なカリキュラムとひとりひとりの生徒に目の行き届く少人数教育を維持・発展させることの重要



性を改めて感じました。

長野県だけでなく他県でも統廃合は避けられない情勢ですが、蒲生先生の講演は少しでもよい形での統廃合へ向けた取り組みに参考となる内容でした。

三人目の講演は清泉大学の岡部敦先生の「国内外の小規模校の取り組み その課題と意義」でした。岡部先生は上田千曲高校の定時制とカナダのアルバータ州の学校を視察・調査したことを中心に講演をされました。パワーポイントで両校の授業風景が紹介されました。教員と生徒が近い距離で実習をしている様子が印象的でした。岡部先生は、「座学での学びは抽象的な学びだけれど、実習は実際に機械に触れて行うもので非常に重要な学びだ」と述べられました。また小規模校であるからこそ教員と生徒の距離が近く、生徒理解も深まり個に応じた学習指導が可能であると指摘されました。上田千曲高校の鷹野先生から専門科が普通科や総合学科に転換・吸収されると各種資格試験の受験資格を失うという問題も指摘されました。

現在、専門学科の統合・縮小が進められていますが、経験を通して学ぶ専門学科の重要性を訴える講演でした。

講演の後の報告①に上田千曲高校定時制の在校生・卒業生と小海高校の卒業生が参加しました。「生徒・卒業生が語る定時制・小規模校のリアル」というテーマで、座談会形式の自由な発言と交流の時間が設けられました。清泉大学の武田先生と岡部先生の進行で、在校生・卒業生から定時制高

校及び小規模校の体験や思い出、そこに学んでよかったことなどを自由に発言してもらいました。少人数の学校のよさや専門科で学ぶ魅力・楽しさが6名の若者から語られました。定時制の先生方と生徒の親密な関係も感じられました。

報告②「外国生徒支援のリアル」では箕輪進修高校の入倉真千子先生から、外国籍、外国由来の生徒の置かれている現状と指導する側の苦勞について報告がありました。

日本語が十分に使えない生徒を受け入れている学校の状況と生徒・保護者の現状を具体的に説明していただきました。報告をお聞きして学校や地域社会での支援態勢が十分でないことがよくわかりました。

たとえば保護者向けの文書はすべて日本語で書かれていて、保護者が理解できずに困っている事例も紹介されました。他県ではWEBサイトなどで外国語の文書をダウンロードできるようにしているところもあるそうです。現状では支援担当者に重い負担があり、支援態勢の改善が急務です。支援態勢の改善には地元市町村の協力も必要ですが、組合として県への働きかけを強めていく必要性を痛感しました。

今回の研究会は2つの研究会の共催





報告①生徒・卒業生が語る定時制・小規模校のリアル
報告、そして質問に答える上田千曲高校定時制機会科在校生の皆さん

で、課題も複数含んでおり半日の日程の中で非常に濃密な内容の研究会でした。現下、小規模校や定時制高校の統廃合、定時制の専門科の普通科転換・総合学科への吸収が進められようとしています。生徒の学びを保障する観点に立ち、明日への希望の持てる学校づくりにつながるよう、今回の研究会を今後の取り組みに生かしていきたいと思っています。

多様な学び・生徒理解と発達研究会

箕輪進修高校 宮澤まどか

教育格差と貧困問題研究会

長野西高校通信制 吉沢 道夫



書籍紹介「みんなでつくろう子どものための学びを」 学習指導要領の今とこれから

『みんなでつくろう子どものための学びを』

刊行委員会（著） メトロポリタンプレス

コロナ禍で学校の重要性が再認識された一方で、再開後は子どもたちの悲鳴が上がった。学習指導要領の本格実施やGIGAスクール構想が重なり、大きな混乱と困難が子どもたちと学校を襲っている。不登校児童生徒や休職教員の急増は、この数年間の教育の変化が大きな要因ではないか。その核にあるものは。本書では、目前に迫る学習指導要領改訂を前に、30人余の現場の教員や研究者が、それぞれの立場から、これらの複合的な問題点を明らかにし未来の教育を議論する。

< 執筆者 >

佐貫浩 子安潤 児美川孝一郎 はじめ30余名



2025教育のつどい記念講演
「難民の声、家族の歴史から考えた
『共に生きる』とは何か」
安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）
YouTube限定公開 詳細は教文HP

教文通信写真館 エッセイ続き

レシピ：塩化アンモニウム（9 g）を蒸留水（20 g）にいれ、穏やかに加熱しながら溶かします。（水に溶ける時は吸熱反応）。温度計で温度を測りながら60℃以下で完全に溶かします。その後、きれいな30 mL試験管に入れ、しばらく待ちます。水温が下がってくると、どこからともなく結晶が析出して、雪が積もるように降ってきます。

実験の様子：なかなか結晶が出てこないの、忍耐が必要です。10分くらいすれば析出てきますが、30分待っても出てこないこともあります。しかし、ゆっくり析出する方が、きれいな結晶ができ、小さな結晶が試験管の中で対流し、どんどん成長する様子が見られ、とてもきれいです。どうしても結晶が出てこないときは、刺激を与えたり、塩化アンモニウムを一粒落とすと析出てきます。しかし、結晶が大きくてあまりきれいではありません。

興味がありましたら、やってみてください。